

作 向陽高等学校演劇部

# プロメテウスの火

## キャスト

小笠優衣 (高校一年生)	16才
小笠奈々子(アンドロイド、介護士)	38才
小西研吾 (優衣の父の弟)	41才
渡哲郎 (万能細胞研究所の研究者)	47才
ニースキヤスター 男	
ニースキヤスター 女	
街の声 女	
街の声 男	

幕が上がる。  
場所はマンハイムのダイニングキッチン

優衣 ただいまあ、電車の中でお腹なっちゃったよ。恥ずかしかったあ。  
奈々子 おなか为空き過ぎちゃって、早く食べ物くれーって、おなかが文句言ったのね。  
優衣 (かばんを置いて椅子に座る。) そうなの。私の意志に反して、人前で文句言わなくてもいいの。

奈々子 健康な証拠なんだからいいじゃないー!

優衣 恥ずかしいよお。あつ、晩御飯、ハンバーグだー!

奈々子 当たり。もうすぐだから、着替えてうっしゅい。

優衣 えー、お腹すきすぎちゃって動けない。

奈々子 おなか背中にくっついちゃったのかな。

優衣 そうなの。うー……。あ、今日の部活でね、空腹のエキュードやったの。

奈々子 (えー!)

優衣 うっちーが「昼飯はまだかの、ミニ」で「ん」って言ったらね、ルイが「おかあさん、お昼ご飯はさっき食べたのよです。これ以上食べたらおなか破裂しちゃいますよー」「そしたらうっちーが「わたしやおなか空いて空いて(ん)」「じゅ、おなか背中にくっついてしまっただわい。」だつて。

奈々子 認知症の老人をやったの?

優衣 うん。

奈々子 うちの老人ホームでは毎日そんな感じよ。

優衣 ほんとに?!

奈々子 認知症で大変よお。本人は訳わからなくなってるけど、介護する方はホント大変なんだから。

優衣 お母さん仕事嫌になることある?!

奈々子 お母さんは仕事だと割り切っているから、嫌になることはないけど、ご家族の方が面倒見きれないからうちに預けに来るわけだよ。

優衣 平均寿命90歳超えたんだってね。ニュースで言った。

奈々子 二人に一人くらいは認知症を患ってるんじゃないかしら。医学が進歩して長生きして認知症になると、認知症になるまえに亡くなるのとどっちが幸せなんだろうね。

優衣 そりゃあ、認知症にならずに長生きするのが一番でしょ。

奈々子 そうね、それが一番よね。

優衣 認知症にならない予防薬か、認知症を治す薬を発見すればいいのよ。

奈々子 そうね。……とにかく早く着替えておいで。すくご飯だからね。お風呂スイッチ入れておいて。

優衣 はあーい。

優衣、部屋を出て行く。奈々子は「飯の用意。優衣戻ってね。」  
「お湯張りをします」

優衣 いただきます。

奈々子 いただきます。

優衣 あ、チーズ載せたい。お母さん、チーズある?

奈々子 チーズ?

優衣 ……お母さん知らないの? ハンバーグにチーズ載せることでも美味しくなるんだよ。

奈々子 チーズ? ……あ、あれね。優衣自分でとってちょうだい。お母さん、ちょっと疲れたの。

優衣、立ち上がって冷蔵庫へチーズを取り出しに行く。

優衣 お母さん大丈夫?

奈々子 大丈夫よ。

優衣 これこれ、熱々のハンバーグにこれ載せることでも美味しいんだから。お母さんも載せなっ。  
奈々子 結構よ。

優衣、テレビのスイッチを入れに行く

キヤスター・男 ニュース探偵団の時間です。

優衣 よしっ、ニュースだぞ。

キヤスター・女 まずは、グッドなニュースから。今年のノーベル生物学賞が、万能細胞研究所の石原哲夫氏に贈られることが内定しました。

キヤスター・男 石原教授が発明した「ARL」というのは、Artificial Radioactive Liの、つまり人工放射性生命で、原子力を利用した生命維持装置です。ARLが完成してしまうかこれ40年になりますね。

キヤスター・女 そのARLが万能細胞研究所で作られたマンドロイドに埋め込まれた訳ですね。現在54体が社会で活躍しているとのことですが、松茸田さん、会ったことありますか？

キヤスター・男 会ったことあるのかも知れませんが、わかりません。なにしろ人間と全く見分けがつかないんですから。労働力の減少と高齢化が相俟ってマンドロイドが導入された訳です。老人福祉の充実がこれで一挙に解決されるだろうと大きな期待が寄せられています。

キヤスター・女 導入当初は、人間みたいで気持ち悪いか、人間の尊厳を脅かすとか不評だったそうですね。松茸田さんはマンドロイドじゃありませんよね？

キヤスター・男 それは褒め言葉ですか？それとも…まさか差別してるんじゃないでしょうねえ。マンドロイドは人間以上に人間味豊かで、人間以上に有能であるとの評価が定まっていますから。残念ながら私は人間です。マンドロイドではありません。

キヤスター・女 マンドロイドは人間とほとんど同じですが、認知症になることがないんですね。

キヤスター・男 そうなんです。この40年で認知症にならないというところがこの程実証され、今度のノーベル賞の決め手になったそうですね。今やマンドロイド技術は夢の技術と賞賛されています。今後大量生産にむけて弾みがつきそうです。

キヤスター・女 この中で、ARLを人間に埋め込めないかという研究がなされているようです。私に埋め込んで貰えばもっと頭が良くなるのかしら。

キヤスター・男 グッドアイデアー！

キヤスター・女 まったけさんー！

キヤスター・男 では次のニュース。マントベンチャーフルトでパンダの四つ子が生まれました。

菜々子がテレビの電源を切る。

優衣 あ。優衣(ゆうひ)の赤ちゃん見たかったのじ。

菜々子 後でネットでみればいいじゃない。

優衣 うんそうする。それにしてもマンドロイドが街を歩き回る時代がくるなんてね。一度合ってみたいな。

奈々子 ……それより今日のハンバーグはどっつ外はパリッとして、中はすっくジュミーでしゅっ付け合せのじんじんのステーキだって、じんじんの甘みが出ると思わなっ。

優衣 うん。すっくくおいしよ。ローボタミーもおいしよ。お母さんの作るご飯は全部おいし。

奈々子 あら。嬉しいと言ってくれるわね。

優衣 それよりお母さんって、今、何歳？

奈々子 38よ。なんで？

優衣 やっぱ、友達のお母さんより若いね。

奈々子 あら、そのなの？

優衣 だって、クラスの友達のお母さんって大体40代で、50代の人もあるよ。

奈々子 ちよっと若いだけじゃない。

優衣 よく見たら、私とお母さんって、なんだか顔のパーツ、あんまり似てないよね。

奈々子 へっ……それは、優衣がお父さん似だからよ。  
優衣 そっかあ。お父さんの顔、覚えてないなあ。  
奈々子 お父さんは、優衣が2歳のときに交通事故で亡くなったからな。

しほろくもくせくと食べる。

優衣 「うちそうさま。まだお風呂湯いりてないみたいだし、」

奈々子 クッキーでも食べるって、戸棚にないのよ。

優衣 食べるー

奈々子 進めておいてなんだけど、よく食べるわね。

優衣 お菓子は別腹だよ。

優衣、食器をシンクに持っていく。テーブルに戻る途中で戸棚を開けてクッキーを探す。

優衣 あれ、クッキーないよ

奈々子 ほんとうさっき見た時はあった気がしたんだけど。

「オフロがフキマシタ」

優衣 あ、私入ってくわね。

奈々子 はい。……」がそうです。

動き出す。

奈々子、食器をシンクに持って行く。持っていったところまで戻って、凍みる。へ

奈々子 あれ、私、何しようとしてたっけ………血洗いか。

暗転。

II

優衣 ただいま。あー、お腹すいた。

奈々子 おかえり。優衣、今日は遅かったわね。

優衣 え、なんでっいつもごおりでしょ。

奈々子 日曜日だから、部活は午前中までだと思ってたわ。今日は遅ったのっ

優衣 え、お母さんっ？

奈々子 遅くなるなら遅くなるとして電話すっつたんだよ。ちよっと心配しちゃったじゃない。

優衣 お母さんっ、今日は、水曜日だよっ

奈々子 は？

優衣 はっはっうちのセリフだよ。ほう、見てー！携帯を見せよ（

嘘。

優衣 本当に、日曜日だと思ってたのっ

奈々子 ええ、そうよ。……どうしよう。仕事、無断欠勤しちゃった。

優衣 えー？電話かかってこなかったのっ？

奈々子 日曜日だからって安心して朝寝してたのよ。

優衣 ちよっと待ってよ。朝は普通だったじゃない。普通に仕事行く用意して。

奈々子 そうね。そうだったわね。それで、その後……勘違いしたのかしら。

優衣 お母さん、大丈夫？

奈々子 ごめんね。次から気をつけるわ。ホームに電話しておかなくっちゃ。

奈々子、老人ホームへ電話。

優衣 お母さんどうしちゃったんだろうっ？

間

優衣 今日の「飯は何？」

奈々子 冷やし中華。

優衣 やったー！

優衣、テレビのスイッチを入れる。

キヤスター男 今回のノーベル賞受賞を受けて、政府は万能細胞研究所への補助金を大幅に引き上げることになりました。時代はいよいよアンドロイドの時代に入ろうとしています。街角でインタビュしました。

声1女 アンドロイドってイケメンばかりなんじゃないでしょうか。カッコいいアンドロイド紹介して欲しいよね。

声2男 サッカーや野球で人間対アンドロイドの試合なんておもしろいだろうな。でも、アンドロイドってすごい能力持ってるんですよ。オリンピックやプロスポーツは衰退してしまうんじゃないかな。

奈々子 ねえ、お腹すいてるんだっけ？早く食べたいんだよ。

優衣 うん。わかった。

奈々子 じゃあ、包丁とまな板も出して、あと、鍋に水入れて沸騰させて。

優衣 はい。

奈々子 テレビはここ最近こればかりね。

優衣 そりゃそっだよ。

キヤスター男 人類は新石器革命、農耕革命、産業革命、そして21世紀初頭の情報革命を経験してきました。情報革命に続く技術革新を世界が待ち望んでいました。そして今、いよいよ停滞する世界から抜け出すことができるかもしれません。私達は「この革命を「バイオ革命」

と名付けたいと思います。さあ、新たな時代の幕開けです。

優衣 今より生活が便利になるのかなあ。

奈々子 そうかもしれないわね。

優衣 介護がずっと人手不足なんですよ。お母さんの仕事も楽になるといいね。

奈々子 そうね。あ、卵焼いてくれる？

優衣 はい。(卵を二個割って箸でほぐし、卵焼きフライパンに)

奈々子 卵焼き終わったら、麺を揉み解しておいてくれる？

優衣 はい。(揉む)あね、お母さん、なんできゅうりをみじん切りにしてるの？

奈々子 あれ？。

(テレビの音声)

キヤスター男 石原教授の弟子として今後渡教授が今後の研究の中心になると思っています。が、どのような方向に進んでいくんですか？

渡 新型アンドロイドの大量生産には、ARRを大量生産しなければなりません。喫緊の目標はARRを迅速かつリーズナブルな価格で大量生産する方法を確立することです。万能細胞であらゆる細胞が作成可能になった今でも、生命を作ることはできません。現段階ではARRをマインドロイドの頭に埋め込まなければなりません。しかしまあ最終目標は生命を作り出すことです。

テレビの音声が続く中、次の場面が進行している。

奈々子 あ、お湯沸いた。ってちよつとお湯多すぎだよ。

優衣 え、(お湯をいれすぎていたようだ)……うわ、うわあ！ぼれた。

奈々子 ああ、もう、貸しなさい。別に蓋なんてしなくてもよかったです。

奈々子、素手で沸騰した水の入った鍋に触ってふたを取り去る。火を切る。

優衣 ちよつとーお母さん！ー大丈夫！？  
奈々子 え？大丈夫よ？  
優衣 早く冷やさなまや。  
奈々子 え、ちよつとはねただけで大袈裟な。  
優衣 え、ちよつと？右手にいつぱいかかったよ？  
奈々子 え？あれ？(右手を見る)ホントだ、赤くなってる。  
優衣 気づかなかったの？  
奈々子 うん。  
優衣 熱くなかったの？  
奈々子 うん。  
優衣 お母さん、もっとしっかり冷やそう。火傷治らないよ。  
奈々子 ……。

暗転

暗転している間に電話の呼び出し音。

優衣 あっ、叔父さん？  
研吾 優衣か？  
優衣 優衣です。御無沙汰しています。  
研吾 元気そうだな。  
優衣 うん、元気！  
研吾 それはよかった。で、なんかあったのか？  
優衣 うん、まあ。  
研吾 お母さんのことか？なんかあったの？  
優衣 叔父さん察しがいいね。  
研吾 そんな気がしただけ。それでお母さんどうしたんだ？  
優衣 うーん、一言で言えないんだけど。

研吾 どういうこと？  
優衣 お母さん、前はしっかりしてたのに、最近妙に物忘れがふえたの。  
研吾 そりゃだれだって物忘れへういすんだらう。  
優衣 物忘れだけじゃなくて……。お母さん、その日は水曜日だったのに、日曜日だと勘違いして仕事休んじゃったんだよ。  
研吾 もしかして、認知症？  
優衣 かもしねない。でも、それだけじゃなくて。  
研吾 どういうこと？  
優衣 叔父さん、日本に帰って来れない？  
研吾 えっ！  
優衣 お願い！  
研吾 急に言われてもなあ。  
優衣 なんか怖いって言うか、不安なの。  
研吾 そうか、わかった。なんとかまよ。いつ帰られるか決まったら電話するの。  
優衣 ありがとう。おみやげをわれないでね。  
研吾 相変わらずみぢぢっかりしているな。お母さんには俺から帰るのって電話しておけよ。それじゃ。  
優衣 うん、本当にありがとう。

暗転

Ⅲ

研吾が帰ってへるのをずっと見守りながら豪華。  
「ご飯が出来上がったよ」の音で椅子に座って待っている優衣と、ただ待っているもなんだから調理器具の片づけをこらしている奈々子。

奈々子 優衣、そわそわしてるね。  
優衣 え？  
奈々子 さっきから時計を見てるから。  
優衣 だって、今日、久しぶりに叔父さんがドイツから帰ってくるんだよ。  
奈々子 おかげでご飯が豪華だもんね。叔父さんに舍ついでよー早く食べたいでしょ。  
優衣 そんなことないよ。だって、4年振りなんだよ。  
奈々子 こんな時期にどっして帰ってくるんだらうかね。

玄関チャイムの音が聞こえる

優衣 (産声「元気なこめ、帰ってきたのかなー！見て！見て！」)  
奈々子 お願いわー。

優衣、部屋を出て行って玄関へ。叔父さんが帰ってきた。

扉のあけしめの音。

優衣 おじさん、おかえりなさい。  
研吾 Guten Abend。  
優衣 叔父さん！は日本だよ。  
研吾 いや、いつ口癖で。

優衣と研吾、居間へ。優衣が研吾の鞆を持ってこる。

研吾 いただきます。  
奈々子 お帰りなさい。  
優衣 グッテン、マーン！って、いつかばつてグッテン！

研吾 勘がいいね。  
優衣 どういたしまして。  
研吾 優衣、ちよっと見ない間に大きくなったな！  
優衣 そうよ。高校1年なんだから。早くご飯食入ようー！叔父さん帰ってくるの待ってたんだよ。  
研吾 悪い悪い、待たせちゃったみたいだね。

研吾、優衣が食卓につく。

優衣 四年ぶりの日本はドイツ。  
研吾 においが和風なんだよ。ドイツの匂いは何というかバタ臭いというかビールくさいというか。日本の匂いがいいんだよね。  
優衣 ふーん。空で繋がってるのこのね。和風の匂いって何の匂い？  
研吾 うん。味噌汁の匂いかも知れないな。いや、お吸い物の匂いかも知れない。  
優衣 目の前にお吸い物あるからでしょ。  
研吾 あっ、そうかー！  
奈々子 研吾さんビールお持ちしましょ！つかっ。  
研吾 ありがとうございます。  
奈々子 どういたしまして。

奈々子、ビールをコップに注ぐ。

優衣 和風の匂いが好きだと言ってたけどビールの方が好きなんだ！  
研吾 匂いと味は違うよ。  
優衣 ね、叔父さん。ドイツと日本だったらどっちがビール美味しい？  
研吾 いや、どっちもおいしいよ。だいたい味は違うけどね。優衣はビール飲んだこと無いの  
か？

優衣 当たり前でしょ。

研吾 優衣もドイツ人ならビール飲めるんだがなあ。

優衣 そうなの？

研吾 16歳から飲めるんだよ。

奈々子 優衣にビール飲ませないで下さいよ。

研吾 すみません。楽しみは後にとっておく方がいい。

奈々子 では頂きましょう。

優衣 はい。

研吾 俺もお腹空いてたんだよ。

三人 いただきます。

優衣 お母さんの手料理はどれも……

研吾 とってもおいしいですよ。

奈々子 御世辞でも嬉しいわ。

研吾 たけのこやサヤインゲン、豚と卵のてんぷら、わあーもずくなんて何年振りだよー！

優衣 お母さん、ドイツにはななそようなものはかり作ったのよ。

研吾 ありがとうございます。

奈々子 研吾さんが帰ってくるって聞いたから、ちょっと奮発しました。

研吾 ほんとにすみません。

奈々子 ぜんぜん構いませんよ。

研吾 あ、そうだー！お土産をわざと買って来たよ。後でね。

優衣 やったあー！ありがとうございますー！ところで叔父さん、ドイツではどんなものを食べているの？

研吾 そうだなあ、カリーブルストなんか結構好きだな。

優衣 それ、どんな料理？

研吾 カレーとケチャップ味のソーセージだよ。ジャガイモと一緒に食べるんだ。

優衣 カレーとケチャップ味のソーセージって、ドイツ人ってちょっと味覚がおかしいんじゃない？

研吾 それがおいしいんだよ。ソーセージ屋の親父がカレー粉の入った缶をケッチャップに落

とした偶然から生まれたらしいんだ。カレー味のソーセージっていう意味なんだよ。

優衣 ふーん。

研吾 ところで、優衣、学校のほうはどのくらい楽しんでるの？

優衣 もちろんだよ。

研吾 部活は何かに入っているの？

優衣 演劇部に入ってるよ。

研吾 演劇部かあ、楽しいか？

優衣 すっごく楽しいよー！先輩たちがほんと面白くて。おじさんの話も聞かせてよ。

奈々子 (頷く)

研吾 そうだな……日本に比べて町並みが本当に美しいんだ。昔の立派な建物がたくさん残っているんだ。戦争で壊れた建物も元通りに建て直したんだって。近くに「ブートー」の家があるよ。そしてね、近くにお城がいくつもあってね、観光客が自転車で行くんだよ。

優衣 へえ、行ってみたいな。

研吾 「ブートー」さま、おじさん、お土産見せてもいいっ……

優衣 うん。

研吾 やった。じゃあ向い側の部屋に行ってみるか。

奈々子 はい。

ちよつとの間沈黙。

研吾 優衣が本当にお世話になっています。

奈々子 そんなこと言わない約束ですよ。私は「優衣の母親」なんですから、世話をするのは当然ですよ、優衣のこと大好きですよ。

優衣 お母さん……羨しいわね「チョ」レポートがすっごく美味しくておしゃべりだよー……

奈々子 そうよかつ……えっ、もう食べたの？

優衣 すっごくおいしかったです。

研吾 お土産、気に入ってもらえたみたいですよ。



優衣 うんっーすっくく気に入ったー！  
奈々子 ほんとに気をつかわせたようですよすみません。  
研吾 もう一つの方見たかい？  
優衣 まだ見てない。持ってくる。

優衣お土産を取りに行く。

優衣 もってきたー！

優、奈 どれどれ？

優衣 これ、何？

奈々子 くるみ割り人形ね。

優衣 へえ。

奈々子 すすくく、いいわね。ええと、手づくり感があって。

優衣 そうね。うん。

研吾 くるみ割り人形っていいのは、ニューヨークのペンネインルックとかで作られていて

工芸品なんだ。

優衣 素敵なお土産ありがとっ。お風呂のお湯張ってくるね。

優衣、お土産を持って去る。

研吾 あ、っ馳走様でした。

奈々子 いえいえどういたしまして。ビールもジョー本お持ち帰りしましょうか。

研吾 すみません。

奈々子 どういたしまして。

(お湯張りをします)

奈々子、キッチンへ。少し遅れて、優衣戻ってくる。

奈々子 はい、どうぞ。トイレにはいつ帰られるんですか？

研吾 えっ、ああ、近いっす。

優衣 それまで家に泊まるんですけど。

研吾 そうさせて貰えるんですね。

奈々子 いつまでも泊まっていってくれたらいいんですよ。お布団敷いておきます。優衣、お

皿片付けてくれる？

優衣 はいー！

奈々子去る。

優衣 …なんかわざわざ呼び出してごめんなさい。

研吾 大丈夫だよ。…お母さん別に变なところなんてなかったけど。

優衣 それが、いつも急に变になるんだよね。

研吾 例えばどんな感じ？

優衣 突然変なことを喋りだしたり、変な行動とったり。記憶がとんでいたり。

研吾 そんな間違い方するって信じられない間違い方するの。何かの病気がかと思ってネッ

トで調べても出てこないし、気が抜けないし、不安で不安でしょうがないの。お母さんとっつ

ちやっただらっ。

研吾 うーん。

優衣 っついたらいいと思っ。

研吾 っついたらいいかって聞かれてもなあ。叔父さん自身実際に見てみないと判断の仕様

がないよ。まあとにかく、様子を見てみよう。

優衣 ……お願いします。

奈々子が戻ってくる。

奈々子 お布団敷いておきました。  
研吾 ありがとうございます。  
奈々子 二人で何の話してたの？  
優衣 ドイツの話を聞いていたの。

「お風呂が沸きました。」のメロディー流れ出す。

奈々子 研吾さんは疲れてるんだから、あんまり質問攻めしないでね。  
優衣 わかってるよ。  
研吾 いえいえ、かまいませんよ。

「お風呂が沸きました」。

優衣 叔父さんお風呂お先にどうぞ。  
研吾 うん。ありがとうございます。

研吾が荷物を持って部屋から出て行く。

暗転

音楽

朝、奈々子朝食の準備中。

優衣 おはよー。  
奈々子 あ、優衣、おはよう。  
優衣 叔父さんまだ寝てるの？  
奈々子 もうすぐ朝御飯だから起してきてくれる。

優衣 はいー！

優衣去る。

奈々子急に倒れる。

優衣 んもう、叔父さん寝起き悪すぎでしょ……。ん？……お母さん！どうしたの！  
奈々子 あ、優衣。……ちよっと疲れが出たみたい。大丈夫よ。  
優衣 でも……  
奈々子 「ミミ出してくるわ。(いたって普通の「ミミ」音を身につけよう、何これ、重いわ。何が入ってたっけ。  
優衣 別に、変わったものは入ってないよ……。ねえ、それ、私が持っていたの？  
奈々子 いや、大丈夫よ。  
優衣 ご飯の用意しておくよ。  
奈々子 ありがとう。

奈々子が部屋から相当おかしい様子で出て行く。それと同時に研吾が新聞を持って入ってくる。

研吾 お母さん、どうしたんだっけ？  
優衣 だから言ったでしょ。ほろ、やっほー。  
研吾 うーん。  
優衣 なんか変だよ。  
研吾 ただ疲れてるだけだろう。  
優衣 でも普通だったらあんな歩き方しないよ。  
研吾 ……確かに、「ミミ」がいやに重かったな。  
優衣 でしょ？  
研吾 ああ……。…(考え中)

優衣 どうしたの？  
研吾 いや、なんでもない。  
優衣 ……やっぱり病院に連れて行ったほうがいいのかな？

奈々子が帰ってくる。

奈々子 朝ごはんまだだったわよね。  
優衣 あ、お母さん…大丈夫？  
奈々子 もう大丈夫よ。  
研吾 おお、よかった。  
奈々子 ええ。それより早く朝ごはん食べましょ。学校遅れちゃうわよ。  
優衣 うん、そうだね。

優衣、奈々子、朝食の準備をする。研吾新聞を読んでいる。

研吾 ノーベル賞の石原さんの弟子のことが載ってるよ。渡哲朗って人。  
奈々子 石原さんと一緒に記者会見に出ていた人でしょう。  
研吾 高校時代の夢が生命(いのち)のすくを作りに出すことだったんだって。  
優衣 へえ、そんなことできるの？  
研吾 生命って、神様にしか作れないんじゃないか。  
優衣 そりゃあ、そうよ。  
奈々子 できるんじゃない。  
優衣 えっ？  
奈々子 いつかそんな日が来ると思うわ。  
優衣 お母さん！  
研吾 ……。  
奈々子 さあ、食べましょ。

優衣 いただきます。  
奈々子・研吾 いただきます。

三人食べ始める。

研吾 ……美味い。  
奈々子 まあ、ありがとう。  
研吾 こんな朝ごはんは久しぶりだなあ。  
優衣 でしょ。  
研吾 ああ。これぞ日本の朝って感じだな。(みそ汁を飲む)ほんと、こんな美味いみそ汁は日本でしか飲めないよ。

三人、しばらく黙々と食べる。

優衣 ごちそうさま。もう学校遅れそうだから行くね。  
奈々子 ああ、もうこんな時間。

奈々子、優衣の弁当を取りに行く。

奈々子 はいっ。

奈々子、弁当を優衣に渡そうとしたとき、奈々子崩れ落ちる。

優衣 ありがとう。えっ、お母さんどうしたの？ ねえ。ねえ！  
研吾 奈々子さん、大丈夫？すぐ救急車！

優衣奈々子の体を揺さぶるが、返事がない。

研吾携帯で119番

研吾 救急車お願いします。  
優衣 お母さん！ねえ、お母さん！

救急車のサイレンの音が聞こえる。  
暗転

#### IV

リビングに研吾と優衣。奈々子は入院中。

優衣 過労？

研吾 そう、ちょっとした過労だと言ってたよ。入院して休めば回復するって。

優衣 何日くらい入院するの？

研吾 2,3日で退院できてるって。

優衣 その間の家事は私がする。

研吾 偉いね。

優衣 きょうの夕食はドライアだよ。叔父さん楽しみにして。

研吾 それは楽しみだ。…優衣、大事な話がある。

優衣 はい？

研吾 優衣、お母さん過労じゃないんだ。

優衣 えっ？

研吾 お母さんの様子がおかしいってドイツに電話くれただろう。

優衣 うん……。

研吾 あの時、もしかしたらうって思ったんだ。だから、とにかく帰らなくっちゃって、仕事をほっぽりだして帰ってきたんだ。

優衣 ありがとう。でももしかしたらうってっ。

研吾 実はな優衣。実は、お母さんはマンデロイドなんだ。

優衣 ……はあ？

研吾 ニュースで聞いたことあるだろ？日本に54体いるって。奈々子さんも、そのうちの一人なんだ。

優衣 お、叔父さん？何を言ってるの？

研吾 優衣が2歳の時、優衣のお父さんとお母さん、お父さんは叔父さんの兄さんだっつてことは知ってるよね。二人とも交通事故で亡くなってしまったんだよ。

優衣 交通事故で亡くなったのはお父さんだけじゃ？

研吾 ううん、一緒に亡くなってしまったんだよ。優衣には叔父さんしか身寄りがいなくなっちゃった。あの頃はロスアンジェルズ支社にいて。アメリカへ連れて行くつもりだった。でも優衣を預かってくれた児童養護施設の方がマンデロイドのお母さんに育てて貰うことを提案してくれてね、優衣さんにとっては独身の叔父さんに育てて貰うより幸せになれるんじゃないかって。マンデロイドに優衣を任せられるかって思った。でも良く考えたらアメリカへ連れていったら、毎日ほとんど優衣を一人ぼっちにすることになるだろうなって。だから、愛情いっぱい育ててくれるってことだったから奈々子さんに御願したんだ。

優衣 そんなの信じられない。嘘やー嘘に決まっているー！

研吾 ……本当にすまない、本当なんだ、いつか話をしなければならんって奈々子さんと話していたんだけど。本当にすまない。今まで黙ってて。

優衣 マンデロイドって、人造人間でしょーロボットと同じなんでしょー！私のお母さんがロボットだなんてあり得ない……。

研吾 優衣、マンデロイドはロボットとは全然違うんだよ。人間と何ら変わらない。お母さんには意志があるし、心もある。暖かい赤い血が流れているんだ。ただ人間と違うのはARLという装置を頭に埋め込まれていて頭からの命令を伝えるのに放射能を使っているんだ。

優衣 人間と変わらないうって言っても。じゃあ、お母さんの心はつくりものじゃないの？

研吾 もちろんだよ。万能細胞によって、個性を持つ脳が作られたんだよ。人間が一人ひとり違うようにお母さんはお母さんだよ。お母さんの脳は人間の脳と一緒に人間の脳が出来る

のと同じ仕組みでできているんだ。問題はそのARLが壊れているんじゃないかということなんだ。

優衣 治せないの？

研吾 わからない。

優衣 人間と同じなんだったう治せる筈よ！治せなかったら…、お母さんをお母さんって呼ばない！

研吾 なんとかしても治してくれようよに頼む。

優衣 そうして、叔父さん！

少しの沈黙

研吾 優衣、お母さんの様子がおかしいって電話してきたよな。うすうす気がついていたらじゃないのか？

優衣 …うん。…なんかすごく怖かった。

暗転

奈々子退院し、休んでいる。

研吾 体調はいかがですか？

奈々子 ええ、まあ。

優衣 …

奈々子 優衣、どうかしたの？

優衣 えっ。なんでもない。

奈々子 そっとならういいんだけど。

研吾 優衣、お母さん無事に退院できてよかったな。

優衣 …うん。

奈々子 あっ、晩御飯の準備しないと。

優衣 いいよ、今日は私がやるから。

奈々子 え？

優衣 休んで。

奈々子 あら、本当っじゃあ、お願いしようかな。

研吾 手伝おうか？

優衣 ううん、いいよ。じゃあ私、買い物に行つてくるわ。

奈々子 いってっついでっ。

研吾 …

優衣去る

奈々子 あの子でっつかしたのかしら。

暗転

渡 はい。こちら万能細胞研究所です。

研吾 小西と申します。ええと、14年前に私の姪の母親になったマンドロイドのことなの

渡 ですが。

研吾 製造番号お願いします。

渡 あ、えい、038U563057……。

研吾 038U563057だよな。

渡 研吾

か？ えーと、小笠奈々子と申すわ。そのマンドロイドのことなのよ。

研吾 ええと、一言でいうと異常な行動をするマンドロイドです。。

渡 異常な行動？

研吾 異常な行動だけではなくて、人間ではありえないことがあるんです。私が説明するよ

リ見に来ていただくのが手っ取り早いかと…。  
渡 お宅の奈々子さんの定期点検は一年後になってますが。  
研吾 一年も待ってられませんが。すぐ来て下さい。なんといいかまずい状況になっているので  
渡 す。それともなんですか？ノーベル賞の取材とかでお忙しいと。  
渡 いいえ、そういうわけでは…わかりました。  
研吾 いつ来ていただけれますか？  
渡 来週の火曜日、午後4時はいかがでしょうか。  
研吾 それで御願います。

暗転

V

研吾 …(奈々子にあした、研究所の方が来られることになりました。  
奈々子 私の様子を見に来るんですか？  
研吾 優衣がお母さんを治してあげていて。  
奈々子 優衣は私がマンドロイドだっこと、知らないですよ。  
研吾 何か悪い病気がないかって心配しているみたいなんです。  
奈々子 そうですか。明日のいつ頃お見えになるんですか？  
研吾 午後4時だっと言っていましたよ。  
奈々子 4時なら、優衣が部活から帰ってくるまでに済みそうですね。優衣には研究所の方が来ることは内緒にしておいてください。  
研吾 …奈々子さん  
奈々子 はいっとうしましたっ。  
研吾 はい、なんでもないです。わかりました。

暗転

リビングのソファで奈々子が休んでいる。

優衣 ただいま。  
奈々子 おかえり。優衣？ え、部活はどうだったの？  
優衣 えっ、いつも火曜日は休みじゃない。  
奈々子 あ、そう、そうだったわね。今日、水曜日だと勘違いしてたみたい。  
優衣 …。  
奈々子 ロック、ナンゾヤンフスマアジヤ。サッーシルチハジウルヨエキツテカケハイセルトツ。優衣、キツテクトクトケロニウッ(おっと、晩御飯作らなきゃ。あっーサラダの材料買っておくのを忘れてた。優衣、買ってきてくれなさい。)  
優衣 おかあさん…どうしたの？っ！っ！っ！  
奈々子 (はっとする。頭を抱えて、我に返って頭が痛いわ。サラダを作るからマボガト買ってきてくれる？あと、ついでにグリーンニングも出してきて。おじさんのスーツ。  
優衣 わかった。

奈々子、しきりに時計を気にする。研吾帰宅。

研吾 ただいま。  
優衣 叔父さんお帰りなさい。  
奈々子 お帰りなさい。  
優衣 イイサエチー(ああそうだー)  
お母さん！  
奈々子 (我に返って)きょう私のお客さん来るんだった。研吾さん悪いけど優衣と一緒に買い物に行ってきたくれませんか。  
優衣 おかあさん、ゆっくり話して。私誰が来るか知っているよ。  
奈々子 えっ！  
優衣 ア、マンドロイドのことも知っている。前に、そうじゃないかっと思っただいであつたよ。

奈々子 えっ！+エーストー(どうして)……ロハント(研吾さん……)  
研吾 優衣、お母さんどうしたんだ？  
優衣 さっきから意味不明な事喋るじゃないの。  
研吾 えー？  
奈々子 優衣……ハイケウツデー(早く行って)。  
優衣 お母さん！  
研吾 奈々子さん

玄関のチャイムが鳴る。  
研吾 ころたえながらが渡を出迎える。

渡 失礼します。わたくし万能細胞研究所の渡と申します。  
研吾 ようこそお出で下さいました。よろしく御願います。  
渡 こちらこそよろしく御願います。  
研吾 スリッパどうぞ。

渡が部屋に入っている。優衣、お茶の用意をし始める。

渡 (中)おはようございます。渡と申します。  
研吾 どうぞ。(椅子を引く)  
渡 どうぞ。  
研吾 ノーベル賞の記者会見の時、石原教授の隣りにおられた方ですね。受賞おめでとうございます。  
渡 ありがとうございます。  
研吾 早速ですが、奈々子さんの様子を見てやってく下さい。  
渡 奈々子さん、1人にちは。すいぶんお久しぶりです。もう14年になりますね。  
奈々子 どうもわざわざおいでくださりありがとうございます。

渡 奈々子さん。体の調子はいかがですか。  
奈々子 あまりよくありません。座ってるだけで頭がくらくらしています。  
渡 お仕事は何をされていますか。  
奈々子 普段は介護の仕事をしています。体調を崩してからは休ませて頂いていますが、  
優衣 体調は回復するんでしょうか？  
渡 詳しく調へないとなんとも言えないんだ。  
優衣 よろしく御願います。  
渡 奈々子さん。立ちますか。  
奈々子 はい。(ふうふうと立つ)  
渡 ゆっくりでいいのですので、歩いてみてください。  
奈々子 はい。(歩き方がどにかざりながら)片足で立ちますか。

奈々子、立とうとするが、立てない。そのままの姿勢で倒れ、優衣が受け止める。

優衣 危ない！  
渡 大丈夫ですか。  
奈々子 ちよつと頭がくらくらしているんです。少し休めば大丈夫だと思います。  
渡 では、少し休憩しましょうか？  
奈々子 いえ、大丈夫です。続けて下さい。  
渡 無理しないでいいんですよ。  
奈々子 本当に大丈夫です。  
渡 ではこの問題に答えてください。簡単な計算問題とか、記憶力の検査です。  
奈々子 これで書くんですか？  
渡 そうです。普通のボールペンですよ。  
奈々子 ああ、そうですね。  
渡 ……。書く様子を食いつくすように見つめる(め)

奈々子 なんですか。

渡 いや。これも検査の一つです。

奈々子 そうですか。

渡 書けましたか。

奈々子 はい。

渡 あれ、途中までしかできていませんよ。

奈々子 あれ、ああ、すいません。(統着を記入する)

渡 これで終わりです。

奈々子 もうおわりですか？

渡 はい。御疲れ様でした。

優衣 渡さん、お母さんはどうなるんですか。治るんですか？

渡 叔父さんから奈々子さんについての話は聞いていますか。

優衣 詳しいことは……

渡 そうですか。先ほどから簡単な検査をしたんですが、なんていうんです、奈々子

さん、かなり疲れているんでしょうね。

研吾 そんなはずは……。病院では過労だと言われました。でも安静にしているても回復しない

し、とても過労だとは思えないんですか。

渡 なるほど……では、これまでの症状をもう少し詳しく教えて頂けますか？

優衣 熱湯が手にかかって火傷したんです。でも少しも熱がる事もなく痛かったりしなかつ

たんです。

渡 火傷したんですか？

優衣 あわてて水で冷やしました。学校で習ったんですけど、普通、脊髄反射で手を引っ込め

るんですよ。それが無かったんです。

渡 他には？

優衣 前はなかったのに、物忘れとか。いきなり倒れたりとか。

研吾 引き渡しの時、病気になることしたら全く人間と同じ病気になると言いましたよね。

渡 ええ、そのとおりです。

研吾 最近では動作や思考も鈍ったように、椅子に座った状態から立ち上がるのもつらいと言

います。仕事も家事も最近ではほとんどできていません。

渡 なるほど。では、日常生活に支障が出ているのですね。

研吾 はい。倒れた時、私も近くにて吃驚しました。人間では考えられない倒れ方をした

んです。ARRLが異常を起こしているのではないのでしょうか？絶対壊れないということでした

が。ARRLの故障は考えられないんですがねえ。

渡、ガイガーカウンターを取り出す。

研吾 渡さん、さっき渡さんが来られる少し前にも意味不明なことをしゃべったんです。意味不明といえますか……。

渡、スイッチを入れるとピーピーという音、渡の顔がわはる。

優衣 そのピーピーという音はなんですか？

渡 ああ、これは、こういう音がするものなんです。

研吾 それ、放射線量を調べるガイガーカウンターじゃないんですか？

渡 えっ！

優衣 叔父さん、ガイガーカウンターって？

研吾 放射線が出てるとピーピー鳴るんだ。渡さんー奈々子さんからでているんです

か？

渡 そんな筈ありません。なにか放射性物質おいていませんか？

研吾 おいている筈ないじゃないですかー渡さん、とぼけたことをおっしゃらないでください

渡 い。疑うのならもう一度調べてください。すみません。まさかとは思いましたが、やはりARRLから放射線がもれているようにで



研吾 放射線が漏れているって、どういことなんですか！ 14年前、絶対に放射線は漏れないって言ったじゃないですか！

渡 ええ。でも、くわずかな値でしたよ。

研吾 わずかなら、漏れてもいっていいんじゃないですか！ 科学者なら放射線の恐ろしさをよく知っていますよ！

渡 ただちに危険という訳では……。

研吾 優衣はこれから何年も一緒に暮らしていくんです。安全なんですか？

渡 ……。

研吾 あの時、絶対放射線が漏れないって言葉を信じたんです。だから……。どうしてくれませんか！

渡 とにかく、どういう状態か精査します。そして後日、その結果をもって来させていただきます。詳細につきましてはその後になります。場合によっては奈々子さんに研究所まで御越し願わなければならぬかも知れません。

優衣 渡さん。それって……。

渡 私はこれで失礼します。

奈々子 ザクロエミミトスチ。(御苦勞様でした。)

渡振り向いて、立ちすくむ。

暗転。

## VI

優衣、昼食の準備、奈々子は椅子で休んでいる。

優衣 さよう暑いから、お昼ご飯トマトと大葉の冷製パスタ作るね。

奈々子 いいわね。

優衣 叔父さんが2人前食べるとして、4人分作るよ。材料はパスタ400gトマト2個、玉

葱1個、大葉2枚、ニンニク1片、塩シソユウ適量、青じそトッピング適量、オリーブオイル適量。材料はこれでいいよね。えっと、ニンニク1かけって、どのくらいいいの？

奈々子 これ、くらいい。

優衣 親指の先ね、わかった。

奈々子 トマトは、ざく切り。切った時に出る汁も使うのよ。玉ねぎはみじん切り。

優衣 わかった。少し休んで。

研吾 優衣、本格的なスパゲッティだな。

優衣 そうよ。楽しみにしてて。

研吾 さのうのあんかけチャーハンすっごくおいしかったなあ。

優衣 ありがとう。できあがるまでせろすろと待ってね。

研吾 楽しみだなあ。

暗転。

渡 (優衣に向かって)奈々子さんを治すあらゆる方法を検討しました。しかし、残念ながら、今の技術では不可能なんです。

優衣 ……それって、どうなるんですか？

渡 頭に埋め込んでいるARRを取り外さなければなりません。

優衣 殺しちゃっていい？

研吾 放射線の漏れを止められないというんですか？

渡 そのことです。全く想定外の症状です。今の科掌の力ではどうしようもありません。

研吾 想定外というだけで済ませられないんですか？ ノーベル賞がなくんじやないですか？ 辞退したらどうですか？

渡 それは、私個人で判断できる問題ではないので、今は何とも返事の仕様がありません。

優衣 とにかく、お母さんを治してよ。

渡 新しいARRと取り替えれば、放射線の漏れは止まります。しかし、奈々子さんの記憶はリセットされてしまいます。旧型のプロトタイプとしてか生きらわれます。

優衣 そんなー、なんとかならないんですか？

渡 ARRの修復はできないんです。

研吾 できないってどういふことですか？

渡 壊れることは想定していません。

研吾 そんなバカな！そんなバカな話って聞いたことありませんよ。壊れることを想定しないなんて思い上がりも甚だしいじゃないですか！

渡 返す言葉もありません。実用化を急ぐあまり、壊れることを考えなかったのかもかもしれません。

研吾 なんだか他人事のように聞こえますね。壊れた時の恐ろしさを知りながら、誰もそこに目を向けなかったんじゃないですか？後世の人に任そうとしてたんじゃないですか？

渡 ……

研吾 あなたがたはこれからどうするつもりなんですか？

渡 奈々子さんに協力して頂いて、壊れた原因を調べようと思っています。

優衣 協力って、お母さんを解剖したり、人体実験するの？

渡 解剖はしません。ただ、植物人間になるという事です。

優衣 植物人間？そんなの嫌！絶対嫌！

研吾 あなた方はいつも言うじゃないですか！科学は夢の技術を生み出しますだの、人類にバラ色の幸せを約束するって。嘘じゃないですか！我々を被曝させることがバラ色の幸せなんですか？奈々子さんは科学の進歩への性に過ぎないじゃないですか！そんなに簡単に植物人間にできるんですか？…それとも、奈々子さんを人間だと思っていないんじゃない？…自分達が作ったものだから、どう処理しようかと勝手だよ。そう思っているんじゃないですか？

渡 いえ、決してそういうわけでは…。全く想定外の事態でして、結果としてそうってしまったわけで…返す言葉もありません。

研吾 想定外、想定外って、想定外のことか起るってことか？想定できるだろう！子供じゃないんだから。

渡 ……

研吾 あなたは今でも生命(いのち)を作り出すことを夢見ているんですか？新聞にでてい

ましたよね。いつか、科学の力によって完全な人間を生み出すつもりですか？  
渡 ……いえ、それはただの夢で…。  
研吾 その夢がもう少しで叶うじゃないですか！ノーベル賞ももらったんだし。世界中の人から応援してもらっている気分ですよ！  
渡 いえ、我々は生命の秘密を探ろうとしています。再生医療が進み、様々な臓器が再生され、移植できるようになりました。人類の幸福に役立つことが我々の目的です。  
研吾 そしてアンドロイドが生まれた。そういう事ですか？  
渡 今のAIは…。  
研吾 そのためには犠牲はやむを得ないと。そういう事ですか？  
優衣 叔父さん…。  
研吾 人類の幸福追究を掲げて多額の研究費をせしめて、こんでもないものを作ろうとしているんだ！ARRが壊れたら取り返しがつかないことになるって考えなかったんですか？目先の名誉に目が眩んだんだろ！  
渡 そういうつもりはありません。

研吾 ノーベル賞を辞退すべきです。今なら間に合うんじゃないんですか。世界中の科学者の目標を汚すべきではありません。いざ、奈々子さん以外のARRも壊れるでしょう。  
渡 ……奈々子さんは特殊な例で、2度と起らないと信じています。理論上は壊れる苦がないんです。  
研吾 此の期に及んで2度と起らないと良く言えたもんだーもういいー言い訳など聞きたくないから、帰って下さい。  
渡 ……

奈々子 私はその夢の技術への踏み台であるとしても、私はこの5年間優衣と一緒に暮らすことが出来て幸せでした。私には親がいません。だから、私は親を思う気持ちがありません。優衣がお母さん、お母さんって言ってくれるのが嬉しかった。いつまでも、優衣の母親でいたかった。  
優衣 お母さん！  
奈々子 優衣をこれ以上被曝させる訳にいきません。渡さん、私を研究所へ連れて行ってくだ

さ。

間

奈々子 命って何なんでしょうねっ。命って神様にしか作れないんじゃないでしょうか？

研吾 神の領域に近づいてはいけません！

渡 我々は決して神に近付こうなどと思っていません。ただ知りたいという我々の思いは誰にも否定できないし、それたくありません。

研吾 じゃあ、優衣の気持ちはどうなるんだ！奈々子さんの気持ちは考えたことあるのか！

奈々子 コングシン、ユモナ(研吾さん、やめて。)

優衣 お母さん、おかあさん……落ち着いて。

奈々子 あっ！(我に返って)私、優衣の本物の母親になれなかった。偽物の親。私は放射線をまき散らす怪物。渡さん、私の仲間のマントロイト達が私のような怪物になる前に放射線が漏れないように殺してあげて下さい。

音楽

キャスター男 たった今前代未聞のニュースが飛び込んできました。万能細胞研究所の石原哲夫氏が内定しているノーベル賞を辞退しました。完璧だった善のARRLが次々と重大な故障を起こしている模様です。ARRLから放射能漏れを起こしているものが次々と見つかったようです。

優衣 …お母さん！私、お母さん大好きだよ。だって、何があってもお母さんは私のお母さんだもの。偽者なんかじゃない。教えてくれた料理だって偽物じゃないよ。ホントにおいしかった。私もどうまく作れるように練習する。ふわふわ半熟卵のオムライスを作れるように練習する。ホワイトソースがタマにならないように頑張る。ハンバーグがハサハサにならないように

練習するよ。肉じゃがが煮崩れしないようにする。カレーライスも煮魚も、あんかけチャーハンにスパゲッティ。お味噌汁、お吸い物にポタージュスープ。お母さんみたいにおいしく作れるように練習する。

幕